

フレーベル主義新釋

(静岡縣保育會第六回總會に於ける講演大要)

倉 橋 惣 三

凡そ古いものに對する態度には、三つの種類があります。古いものは何んでも貴いものである、一道に尊重、尊敬すべきものであつて、これを非難する如きは勿論、批評を試むるさへも神聖を穢すといふやうな態度が其の一であります。次に古いものは何もかも時代後れのもので、今日の新しい時代にあつては、總て無用のものである。そんなものは頭から打ち毀そうといふのが、第二の態度であります。それから、總の古いものを、當に其の古きが故のみからでなく、慎重なる研究によつて、詳細なる批評を加へると共に、益々其の眞

價値を尊重しやうといふのが第三の態度であります。

幼兒教育に於けるフレーベル主義も、また此の三つの態度を以つて迎へられるのであります。ある者は一も二もなくこれに盲從して、其の傳説的權威ともいふべきものを、徒らに尊重して、これに對し、彼れこれ論議を試むるさへ、相濟まぬやうに思つて居るのであります。そうかと思ふと、新しい時代の要求、新しい學理上の研究といふやうのものを、振りかざしてフレーベル主義の或る缺點から、其の全體を却けやうといふやうな両方に極端な考へがあるのであります。此の間に

立つて私共の態度は如何にあるべきかと云ひますと、如上の兩極端論者は共に其の結論は兎も角、態度の甚だ淺薄なることを感ずるであります。勿論、フレーベルの時代と今日とは、教育の基礎となるべき心理學の發達が非常に違つて居ります。従つて今日の眼から批評的に見たるフレーベルの教育意見は、自から多くの缺點を有して居るのであります。然しその長所は勿論、缺點の裏にさへも、フレーベルの貴重なる根本思想の漂ふて居ることを見出すのであります。フレーベルの如き教育上の學者と云ふよりは寧ろ天才であつた人に對しては、吾人の研究の進むと共に、缺點も明かになると共に尊ぶさもまた益々大にならざるを得ないのであります。茲に敢てフレーベル主義の新釋と題しましたのは、この鋭さと謙遜とを失はざる態度を以つて、古いフレーベルを新しく考へて見度いと思ふのであります。

二

フレーベルの考へには、其の考へ方の形式に二つの特色があります。一は論理的なること、一は象徴的なることであります。

フレーベルは必ずしも哲學者と呼ぶべき人ではなかつたのでありますが、其の性質と、幼時の境遇によつて、總のものを深く考へ、一々筋道を立て、論理的に築き上げて行くと云ふ風がありました。其の爲めに氏の思想も方法も常に甚しく理の勝つたものになつて居ります。この事は幼児教育に關するフレーベルの天才的着想に對しては、多くの惡しき影響を與へて居るのであります。氏の『人の教育』や『幼稚園教育論』等を讀めば、氏の思想が如何に理詰め主義であるかといふ事を氣が附くのであります。殊に氏の所謂、恩物は此の最も著しきものであります。御承知の如く、今日、普通に何の氣もなく用ゐられて居り

ます種々の恩物は、フレイベル自身の考へから云へば、大層な理窟の籠つて居ることでありませう。先づ第一恩物の毯は宇宙の統一を表はして居る完全體であつて、其の他の恩物はこれから、論理的に派生せられて居るものであります。詰り、フレイベルの考へでは、此の恩物によつて、氏の哲學觀が幼兒に教へられて行かうとするのであります。

然るに斯の如き恩物を以つて、教育せられやうとする幼兒そのものは甚だ非論理的なものであります。一體總の教授に論理的と、心理的との二種があつて、其の論理的方法の多く不自然なることは、兒童心理研究の明かに認めて居る處であります。兒童の了解は多くは全體から部分に及ぶものでありまして、成人の抽象的な論理的解釋の順序とは全然違つて居るのであります。

現に今日に於いては、幼兒教育の教材として、

所謂、恩物の使用は漸次減じて居ります。少くも昔の嚴格なる遵奉に對して甚しく自由なる變改を加へられつゝあります。即ちフレイベルが恩物を用ゐて幼兒の自己活動を發揮せしめんとした其の着想の根本は、大に尊重すべきであります。其の實行上恩物其のものゝ組み立に關しては、今日の兒童心理學の原則に反すると云ふことになつて居るのであります。

フレイベルを尊敬すると共に、其の恩物もまた必ず一々忠實に使用しなければならぬと云ふは、古きものに對する第一の態度であります。其の誤りなることは勿論であります。然しこれが故に、フレイベルが恩物を造りました根本の精神が全然捨てらるべきものではありません。其の精神の採るべき處に從つて、今日の兒童心理學上の原則から新しい恩物を兒童に與ふことは、即ちフレイベル主義新釋の大切なる一項目であります。

フレーベル教育の第二の特徴が、象徴的なることは、これまた彼れの著述の明かに示して居る處であります。殊に彼れの大作、『母の遊び』唱歌は其の最も著しきものであります。彼の書の中に含まれたる多くの唱歌は、フレーベルの考へから云へば、自然、家庭、社會、國家等の抽象的觀念、及び兒童自身の内の生活を象徴したるものでありまして、この象徴を徹して幼兒にこれらの抽象的知識を興へやうといふのであります。象徴主義はフレーベルの教育思想の最大要訣の一でありまして、幼兒の心理作用そのものが、元來象徴的なるものであるといふ説に基いて居るのであります。然しこれは今日の兒童研究の明瞭に否定する處でありまして、斯の如きは、成人から見た解釋に過ぎないのであります。従つてこれを幼兒教育の手段とするの不適當なる事も云ふを用ゐま

せん。而も今日、尙且つ幼兒教育の象徴主義の遺弊を認むることは、談話材料若しくは唱歌の選定等に於いて、屢々見ることでありまして、これが爲めに幼兒教育の新進歩を害することが尠くないと思ひます。元來、我が國古來の道德教育には、象徴主義の傾向が尠くないのであります。先日、文政年間の著述で、當駿河の國に關係のあつた後藤某と云ふ人の寫本を見ましたが、其の中に子供の「おつむてんく」「かいぐりぐり」「てうちく」「にぎく」などが一々訓育的の意味あるもの、如く解釋されて居るのを見たことがあります。例へば「おつむてんく」は、立服せぬやうに心で頭をおさへる事である。又、「にぎく」は何事によらず、物事をにぎりつめず、又開け放しにせぬやう緩急程よくせよとの教だと云ふ如きことが書いてありました。斯の如きは勿論、笑ひ話の如き極端なる例であります。程度こそ違へ、總の

ものを訓育の象徴に解して行かうとする弊は、吾々にも少なからぬことであります。

フレーベルの按出したる教育法の中で、この象徴的弊害を除く要あることは、最も注意を要すべき點であります。而して其の象徴主義の弊を排すると共に、この象徴によつて幼児に與へんとしたフレーベルの心の裏は、今日も尙、貴重すべきことであります。この尊重と改良とは、吾人のフレーベル主義新釋の第二の重用なる項目であります。

四

此の他、新釋によつて研究を試みらるべき項目は尠なからぬこと、思ひますが、フレーベルの思想に誤つた表出を與へた大原因は、以上二つが最も主なるものであります。そこで、この誤れる衣を脱いで、フレーベル主義の本體に穿ち入りまするならば、如何なる要點を吾人に教ふるであります。

せうか、これまた、細部に涉りまするならば、限りなく多くの點を教へ得ること、思ひまするが、兒童の自己活動を尊重し遊戯を以つて最も貴重な教育方法として、自然を以つて最も貴重な教材としたる點であります。而もこれが前述の二つの誤りによつて、『母の遊び』の象徴的遊戯によつて、眞の遊戯の意義が誤まられ、また論理的恩物の按出によつて、自然物による教育の新意義が滅せられたのであります。果して斯の如しとしますれば、私共フレーベルを尊重する者の今日の責務は、フレーベルを忘れて、所謂新教育法に馳ることではなく、フレーベルを研究して、其の深き眞精神の誤らざる表現を與ふことであります。

近來、教育學上の新主義として、唱導せられて居ります彼の作業主義教育の如きも、其の思想の根底が兒童の自己活動を尊重するフレーベルの思想の中に存して居るものであることは、多くの

學者に明かに認めて居る處であります。其の形を捨て、フレーベルの眞精神を深く研究したものは昔から一種の作業主義教育者であつたのであります。又彼の教育に戯曲本能を利用する新傾向の如きも、フレーベルの遊戯の教育の中に特に存して居るのであります。又、近時評判なる彼のモンテッソーリ教育の如きも、他の幼兒教育者がフレーベル主義の形式に囚へられて居る間に、其の沈滞を脱してフレーベル主義の生ける中核に徹底したるものに過ぎないのであります。即ち換言すれば、近時の教育上の新傾向は、何れもフレーベル主義の一種の新釋と云つても過言でないのであります。フレーベルの偉大なる天才的思想は、其の短き實行の間に按出せられた方法の中に盡くるが如き小なるものではないのであります。吾々もまた、慎重と共に一層自由なる新釋を試むることが幼兒に對する吾人の責任たるは勿論フレーベルに對す

る責務でもあると信ずるのであります。

五

終りに尙一言を添へて置くことは、前にも一寸述べた如く、フレーベル主義新釋は單に幼稚園教育の問題たるのみならず、近時に於いては廣き一般兒童教育問題の傾向であることでもあります。これを他の方から言へば、從來幼稚園教育者のみの領分と認められて居りましたフレーベル研究は、一層廣き教育研究に重要な地位を占め來たつたことであります。其の幼兒に對する深き愛心、己れを空ふして此の小さきものゝ爲めに盡くす天職の高き自覺、また靜かに自ら安んずる自己慰安等に就いては、更めて云ふまでもありませんが、而も幼稚園教育が學界の問題として、何となく小さき事であるかの如き感じは、幼稚園教育者の往々にして免れ難き正直なる感じであります。而も現今、教育學界の大勢は幼稚園教育者の研究

問題に對して大なる識認と、追従とを示して居るのであります。研究の問題としても、幼稚園教育は、今や決して小なるものではないのであります。

お互に堂々たる自重を以つて益々眞個のフレイ
ベル主義新釋を勵まなければならぬと思ひま
す。

哺乳兒の營養法(二)

醫學士 石 塚 保 吉

哺乳兒の營養法、これを易しく云ひますと、お乳の吞まし方であります。かう云ひますと、極く詰らない何でもないのであるやうに考へられますけれども、實際は非常に六ヶしい事柄でありまして、小兒科の醫者は常にこの爲めに苦心をして居るのであります。

この方法が宜しきを得て居るか否かは、直接に子供の發育の上に大いなる影響を及ぼすものであるの不當なる爲めに、消化機病を惹き起して其の子

供の一生に少なからぬ不利益を來すものであります。哺乳兒の時代に、一度消化機を害しますと、夫が度々再發致しまして非常に子供の發育を妨げるもので其影響は殆んど一生これがついて廻るのでありますから、何んでもない事のやうに思つて居るお乳の吞まし方は、極めて細心の注意を要するのであります。

營養法といふ中には、二つの區別があります。即ち(一)天然の營養法、(二)人工營養法、であり